

奈良県立医科大学 学報



早稲田大学との連携講座における懇親会（早大理工学部カフェテリアにて）

教授陣：2列目 吉川教授 橋本教授 吉岡学長 白井総長
 前列 池田教授 長谷川教授

早稲田大学との連携

October 2010 vol.34

耳鼻咽喉・頭頸部外科学 教授 細井裕司

【発端】 早稲田大学と本学との連携は、吉岡学長のご了解のもと、2008年7月4日に早稲田大学大隈会館で白井克彦総長と私がお会いしたことから始まりました。以後、学長と共に連携を進めて参りました。なぜ他学との連携が必要かと思われる方もおられるでしょう。それは奈良医大の根本的なレベルアップを図りたいと考えたからです。

日本には80の医学部・医科大学がありますが、奈良医大は総合的に見て何位くらいでしょうか。もっと上を目指すために奈良医大に欠けているものは何かと考えたとき、それは現在の高度医学・医療を支えている理工学系の知識・技術や人文系も含めた総合大学の持つ力です。この力は奈良医大単独では得ることが困難で、他の総合大学との深い連携が必要と考えました。

なぜ早稲田かと言えば、日本を代表する大学であること、医学部がないこと、理工学系、人文・社会学系は歴史と伝統がありハイレベルであることに加え、東京とパイプがつながることにより迅速な情報収集などのメリットがあげられます。

【連携協定と地域医療創生】 同年12月22日奈良県立医科大学と早稲田大学との連携協力に関する協定が調印され、種々の協力事業がスタートいたしました。2009年には、「新時代の地域医療創生のための全人的な総合医・医療専門職育成の革新的教育プログラム」を共同で作成しました。また、早大のオープンキャンパスに参加し、奈良医大をアピールいたしました。早大のキャンパスが全国からの万単位の受験希望者であふれているのを見て圧倒されました。

【医学特別講義】 2010年には人的交流が活発になってきました。1学年の医学特別講義には亀山教授（早大国際情報通信研究センター所長）にお越しいただき「情報通信が拓く新しい医療」について講演いただきました。

【早大・奈良医大連携講座と両大学学生の交流】 2010年8月（夏期休暇中）には早大・奈良医大連携のオープン科目として「先端放射線医療工学」を早大理工学部に開講し、奈良医大から吉川教授（放射線医学）、長谷川教授（放射線腫瘍医学）、早大側から片岡教授（放射線応用物理学）、鷲尾教授（加速器科学）、野田主任研究員（放医研、理工学）が講義を行いました。奈良医大の学生17名（1～5年生）と早大の学生7名が異分野の教授の講演を聞き、また交流を深めました。早大のご厚意で早大見学会と懇親会（写真）を催していただきました。懇親会には早大から白井総長、田中教務部長（政治経済学術院教授）、橋本理工学術院長（教授）、宇高教務部副部長（理工学術院教授）、中川オープン

CONTENTS

| | |
|-----------------------------------|----|
| 早稲田大学との連携 | 1 |
| 教授就任挨拶 | 2 |
| 地域医療学講座開設／研究教授 | 3 |
| 解剖慰霊祭／平成23年度入試日程（医学部） | 4 |
| 22年度学事計画（全体） | 5 |
| オープンキャンパス開催報告 | |
| ひらめき☆ときめきサイエンス結果報告 | 6 |
| 看護学科学学生生活部会講演会 | |
| 学園祭開催案内 | 7 |
| 西医体成績 | 8 |
| クラブ紹介<ギター部・水泳部> | 9 |
| 英国Oxford University訪問報告／実験動物慰霊祭 | 10 |
| 医療倫理講習会開催／「医の倫理委員会」からのお知らせ | |
| 動物実験の適正な実施に関する外部検証 | 11 |
| ルール大学とのセミナー／研究成果最適展開支援事業A-STEP | |
| 産学官連携だより | 12 |
| 中島佐一学術研究奨励賞授賞式 | 13 |
| 平成21年度業務実績に関する評価等／闘病記文庫充実 | 14 |
| インパクトファクター検索システム／機関リポジトリワークショップ | 15 |
| パキスタン大洪水被害国際緊急援助隊参加報告 | 16 |
| 平尾佳彦教授に厚生労働大臣感謝状／リウマチ外来がスタート／絵画寄附 | 18 |
| メディカルパスセンター／認定看護師紹介 | 19 |
| 公開講座 開催報告／ふるさと奈良県応援寄付金 | |
| 職員バレーボール大会優勝 | 20 |
| レポート | 21 |
| メディア掲載情報／おくやみ／下ツ道／広告 | 22 |

教育センター教務主任（理工学術院教授）、梅津教授（TWIns：先端生命医科学センター長）、池田理工学術院教授、笠貫理工学術院教授をはじめ多数の教職員が参加されました。奈良医大からは吉岡学長、吉川教授、長谷川教授と私が参加いたしました。

【研究室配属】 今まで、学生（4年生）が奈良医大の研究室（教室）の中から希望の科を選択して研究実習をしていた研究室配属を、早大の研究室まで広げることになりました。初年度（2010年度）に受け容れていただける早大の研究室は医用生体工学・生体材料学（循環器医工学）（笠貫教授、岩崎教授、梅津教授）と生命医科学（血液・ナノ医工学）（池田教授、武岡教授）です。

【臨床医学アドバンスコース】 2011年3月には、5年生を対象にこの中の9時間分を3名の早大理工学術院教授（梅津教授、橋本教授、高西教授）に担当していただきます。人工臓器、ロボット工学の第一人者の先生方で、最先端の知識が習得できると思います。

【病院】 2010年5月には日本医療メディエーター協会代表理事の和田教授（早大大学院法務研究科）に、附属病院の医師、看護師など職員を対象に、医療対話仲介の講演をいただきました。現在国から補助を受け、和田教授のご指導のもと奈良県に医療メディエーションが根付くように活動しています。

【将来】 今後両大学の連携をより一層深め、奈良医大のレベルアップを加速することにより、多くの医師、看護師、医療技術者が全国から奈良医大に集まるようになることを期待しています。奈良医大に優秀な人材が集まれば、奈良県の医療レベルは質、量ともに充実し、奈良県にも大いに貢献できると思っています。

（編集委員から）早稲田大学白井総長には経営審議会委員に、同じく池田教授には教育研究審議会委員に就任いただいています。（両審議会委員名簿はこちら→<http://www.naramed-u.ac.jp/~aff/johokoukai/>）

教授就任挨拶



眼科です

眼科学 教授 緒方 奈保子（おがた なほこ）

平成22年9月1日付けで眼科学講座を担当させていただくことになりました。65年におよぶ奈良県立医科大学の歴史の一端を担うというその重責に身のひきしめる思いです。

患者の立場に立った診療をおこない、また診療を通じて常に考えながら医療に従事する人材の育成をはかり、優秀な臨床医を養成していきたいと思っています。

地域に根ざした医療をおこなうとともに世界に発信できる医療をめざしたいと考えています。

高齢化の進むなか眼科の患者は増加していますが、眼科の診療には各科との緊密な連携が欠かせません。どうか皆様の温かいご指導、ご支援をたまわりますようお願い申し上げます。



老年看護学教育と研究

老年看護学 教授 松井 美帆（まつい みほ）

平成22年10月1日付けで老年看護学を担当させていただくことになりました。医療・介護において、老年看護学は今後さらに発展すべき重要な学問分野であります。教育においては高齢患者が多くを占める中、生活の質の向上を目指して高齢者に多い老年症候群を予防できる実践者の育成に努める所存です。また、研究については高齢者倫理に関わるテーマをはじめとして、奈良から国内外に研究成果を発表していきたいと思っています。

教員として老年看護学の教育・研究に従事する中、ファイザーヘルスリサーチ助成金を得て米国で高齢者を対象とした調査を行って参りました。どうぞ皆様の温かいご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

「地域医療学講座」開設

昨今奈良県は、「たらいまわし」との表現でマスコミに批判された救急医療体制の不備、2004年から始まった新臨床研修体制からくる医師不足といった問題を抱えています。そこで奈良県から、①断らない救急医療体制の構築、②診療連携による切れ目のない医療の提供および③医師の能力を十分発揮できる環境整備を三本柱とする「奈良県医療改革のための基本方針」が出され、実践組織として本学と奈良県との協働で、この「地域医療学講座」および「地域医療総合支援センター※1」が開設されることになりました。

「地域医療学講座」は、地域医療に関する教育・研究を通じて、地域医療の充実を図り、医師の適正配置に資することを目的としており、その主な役割は最適な地域医療体制の「設計図」を創ることです。実際の医師配置などは本学各診療科の理解と支援の下、「地域医療総合支援センター」を中心に行います。地域医療に関する教育・研究の具体例としては、医師が能力を発揮できる地域医療体制の研究や「県費奨学生※2」のキャリアパスの構築・支援についての研究などが挙げられます。医師の適正配置については、命に関わる重症疾患（脳卒中、急性冠症候群・心筋梗塞、重症外傷、急性腹症および周産期疾患）の救急医療体制を充実させることが最重要となります。

※1「地域医療総合支援センター」は、安定的な医師派遣実現のため設置するもので、現在、その早期設置に向け、県と協議が進められています。

※2「県費奨学生」は、県から奨学金の貸与を受け、原則として卒業9年間は奈良県の地域医療に携わることが契約されています。



よろしくお願ひします

地域医療学 教授 松村 雅彦 (まつむら まさひこ)

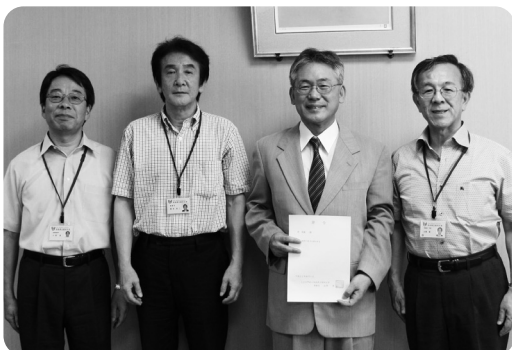
平成22年10月1日付けで新設の地域医療学講座を担当させていただくことになりました。これまで消化器内科、総合診療科、栄養サポートチームで培ってきた経験を生かし、県の方々や医療施設の方々の助けをお借りして運営して参りたいと思っています。

奈良県における地域医療において重視すべきは救急医療とへき地医療であると考えています。適切な救急医療体制ならびにへき地医療体制を構築するためには、まず県内における各疾患の発生状況ならびに診療実態を把握し、どの地域にどの程度の医療レベルの病院や診療所が必要なのか、そこにはどのような医師がどれだけ必要なのかを検討した上で、各病院が役割を分担し、施設間でスムーズな連携を図る方法についても検討が必要です。へき地医療においては、全人的医療を行う医師の育成方法についても検討が必要です。

これらのことを地域医療学の観点から実行し、奈良県における地域医療の充実を図り、最適な地域医療体制を構築するため努力する所存です。

(総務課)

益々のご活躍を～森先生が「研究教授」に～



森研究教授を囲んで、右から吉岡学長、森研究教授、喜多医学部長、小西研究部長

今年度新たに、「研究面で優れた実績が認められる者に対し『研究教授』の称号を付与する」制度ができました。これは、本学の研究の更なる発展促進を図るために設けられたものです。

これを受けて、8月1日付けで、森俊雄先生（先端医学研究機構ラジオアイソトープ実験施設）に『研究教授』の称号が付与されました。

30年以上にわたる高水準の研究実績と、指導的な役割等が高く評価されたことによるものです。

第64回解剖慰霊祭を挙行了しました



平成22年9月16日(木)午後3時から大講堂において、第64回解剖慰霊祭が執り行われました。系統解剖及び病理解剖に貴重なご遺体を提供していただいた方々のご遺族や、献体登録を申し出ていただいています奈良医大白菊会会員、来賓、教職員、学生等、合わせて約400名が参列されました。

今年は新たに、系統解剖29柱、病理解剖42柱の計71柱を加えて、5914柱の御霊をお祀りさせていただきました。慰霊祭は、参列者全員の黙祷の後、吉岡学長の祭文奉読、学生を代表して医学科3年生総代寺井太一さんからの感謝文奉読、参列者の献花と続き、最後に学長からのお礼の挨拶をもって終了しました。

医師、看護師を志す者にとって解剖実習を通じ、人体の構造を知ることとは避けて通れません。尊い意思を持ち、医学の発展と医学教育の向上のために自らのご遺体を捧げてくださった皆様方に改めて深い感謝の意を表しますとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。

平成23年度 入試日程

医学部

| 学科 | 入試区分 | 募集定員 | 出願期間 | 試験日 | 合格者発表 |
|------|--------------|------|------------------------------|----------------------|-----------|
| 看護学科 | 推薦・社会人 注1 | 30 | 平成22年11月1日(月) ・11月2日(火) | 11月27日(土) | 12月14日(火) |
| 医学科 | 推薦注2 | 28 | 平成22年12月14日(火) ～12月17日(金) | 2月6日(日) | 2月9日(水) |
| 医学科 | 前期 | 65 | 平成23年1月24日(月) ～2月2日(水) | 2月25日(金) 2月26日(土) | 3月8日(火) |
| 看護学科 | 前期 | 40 | | | |
| 医学科 | 後期注3 | 20 | | 3月12日(土) | 3月22日(火) |
| 看護学科 | 後期注4 | 10 | | 3月13日(日) | |

注1：看護学科の推薦・社会人入試募集定員30名の内訳は、次のとおりです。

「推薦選抜」(25名)と「社会人特別選抜」(5名)。

注2：医学科の推薦入試募集定員28名の内訳は、次のとおりです。

「緊急医師確保特別入学試験」(13名)と「地域枠入学試験」(15名)。

注3：医学科の後期日程の募集定員20名には「地域枠」(10名以内)を含みます。

注4：看護学科の後期日程は「地域枠」のみの募集です。

詳しくはホームページで確認してください。<http://www.naramed-u.ac.jp/~jyuku/>
募集要項の配布状況は、次のとおりです。

看護学科の推薦・社会人入試分は学務課で配布中です。

医学科の推薦入試分は10月下旬、その他は11月下旬から配布予定です。

～8月7・8日、オープンキャンパスを開催～

8月7日(土)に医学科の、8日(日)に看護学科のオープンキャンパスを開催しました。近年、参加者が増加していたこともあり、今年
は新しい方式として、両学科を一日ずつ実施したところです。

猛暑の中、医学科は約450名、看護学科は約380名の参加があり、受付開始前から来学する参加者も見受けられました。先着順の
施設見学(先端医学研究機構、附属図書館、看護学校舎、附属病院など)もすぐに定員に達する盛況ぶりで、本学の人気の高さがあらた
めて裏付けられました。両日とも、「学長講演」、「学科紹介・入試紹介」には、多数の入学希望者が熱心に耳を傾けていました。

「在校生・先輩からのメッセージ」には、在校生に加え、本学の卒業生でもある附属病院の臨床研修医及び看護師に参加していただ
き、先輩として、また現役の医師・看護師としてのコメントをいただきました。

また、「連携協定を結んでいる大学のパネル展示」や、「学生生活を紹介する写真展示・スライドショー上映」を行ったほか、栗田書
店の協力による「教科書展示コーナー」などを設けました。

今回の成功は、学生ボランティアなど数多くの皆さんの協力のおかげです。ここに厚くお礼申し上げますとともに、今後ともご協力
をお願いいたします。



真剣な質問が次々と～在学生による相談コーナー～



熱気溢れる大講堂～吉岡学長による講演～

(研究推進課)

小・中・高校生のための
プログラム



KAKENHI

ひらめき☆ときめきサイエンス ～ようこそ大学の研究室へ～ KAKENHI (研究成果の社会還元・普及事業) を実施

8月7日、8日の両日、本学のオープンキャンパスにあわせて実施しました。

この事業は、最先端の研究成果について、小学校5・6年生、中学生、高校生の皆さんが、直に見る、聞く、触れることで、科学の
おもしろさを感じてもらおう科学研費補助金によるプログラムで、本学では、高校生(2・3年生の女子)を対象として「生命の神秘
と誕生～赤ちゃんの発育と病気～」(実施代表者:産婦人科学 小林浩教授)と題したプログラムを実施し、42名が受講しました。

受講生たちは、若い女性がかかりやすい子宮の病気の原因とその予防などについての講義や胎児超音波をシミュレーション機器を用
いて体験できる実習などを通して、子宮の大切さや生命の尊さを学びました。



熱心に耳を傾ける受講生たち



シミュレーション機器で胎児超音波を体験

ノーモア「こころの病」!

～7月2日 看護学科学生生活部会講演会～



大学に入学し、新しい環境の中で新しい勉学を始めた学生には、様々な悩みやストレスが生じます。このような状況で夏休みに入ると、学校の生活からは一時的に離れることにはなりますが、友人や教職員から離れて一人になった時に、悩みやストレスはかえって大きくなることも多いようです。

看護学科学生生活部会（部会長：成人看護学 瀬川教授）では、このような学生の心のカウンセリングの一助として、7月2日(金)、「学生のメンタルヘルス」と題して講演会を開催しました。

本学附属病院 精神医療センターの臨床心理士 田中尚平先生を講師としてお迎えし、「こころの病」「対人関係」などをテーマに、わかりやすい事例をまじえてお話をいただきました。看護学科1、2年生を中心とした約130名の参加者達からは「わかりやすい話でとてもためになっ

た」「講師の熱心が伝わってきた」等の感想が寄せられ、さらに「これからの実習や将来の仕事に役立てたい」との意見もありました。

今回は、医学科（「違法薬物」をテーマに4月に開催）、看護学科と別に開催した学生生活部会講演会ですが、今後も学生生活に関するいろいろなテーマを取り上げて、より多くの学生にとって参考になるものを開催していく予定です。

(平成22年度白檀生祭実行委員会)

乞うご期待!

白檀生祭

今年のテーマは「飛翔」

～10月29日(金)から31日(日)まで～

いよいよ、年に一度の学園祭の季節がやってきました。

今年は奈良県において「平城遷都1300年祭」が行われており、大いに盛り上がりを見せています。それに負けにくい楽しいものにできればと思っています。

それでは主なイベントをご紹介します。

- ・相撲大会 10月29日(金) 於 相撲場
- ・球技大会 10月29日(金) 於 体育館
- ・シンポジウム 10月30日(土) 於 大講堂
 テーマ：人と人のつながり（学生参加型の討論会を予定）
 講師：川原尚行先生
 入場料：無料
 注目点：スーダンで究極の地域医療をされている川原先生をお招きして、人と人のつながりをテーマに地域医療について一緒に考えていきます。
- ・基礎医学解剖学に関する展示等 10月30日(土)～10月31日(日) 於 一般教育校舎
- ・ステージ企画 10月30日(土)～10月31日(日) 於 野外メインステージ
 注目点：各クラブによるライブ、面白イベントが目白押しです!!
- ・模擬店 10月30日(土)～10月31日(日) 於 一般教育校舎南側
- ・メインイベント 10月31日(日) 於 体育館
 「忍成修吾トークショー」
 入場料：S席1500円 A席1000円

白檀生祭の運営にあたっては、先生方の多大なるご援助をいただいております。

この場をお借りしてお礼申し上げますとともに、今後もよりよい白檀生祭を目指してまいりますので、何卒ご協力のほどよろしくお願いたします。

皆様のお越しを心よりお待ちしております。



熱い夏！燃えた吼えた戦った！

～第63回西医体で総合17位～

今夏も「西日本医科学学生総合体育大会」が盛大に開催されました。この通称「西医体」は、体育系の運動部にとっては最高・最大の大会です。つまり、日頃の猛練習の成果を発揮する貴重な舞台なのです。

本学は、総合成績で17位と、前回の36位から大躍進したほか、各競技で下記の成績を修めました。母校の名誉のため、そして一人ひとりの目標のため、大いに奮闘した彼ら、彼女らに、心から「お疲れさまでした」。

- ◆期 間：平成22年8月1日(日)～8月16日(月) ただし、スキーは別に23年3月に実施
- ◆主 管：東海・北陸ブロック
- ◆代表主管校：名古屋大学医学部
- ◆参加大学数：西日本に立地する、医学部をもつ大学または医科大学 計44大学
- ◆競 技 数：21

| 競 技 名 | 【団体】 成績 | |
|------------|------------|----------------------------------|
| | 1 テニス | 男 |
| | 女 | 初戦敗退 |
| 2 ソフトテニス | 男 | 初戦敗退 |
| | 女 | 二回戦敗退 |
| 3 サッカー | | 初戦敗退 |
| 4 準硬式野球 | | 3位 |
| 5 バスケットボール | 男 | 4位 |
| | 女 | ベスト16 |
| 6 バレーボール | 男 | 初戦敗退 |
| | 女 | ベスト8 |
| 7 バドミントン | 男 | 二回戦敗退 |
| | 女 | 初戦敗退 |
| 8 弓道 | 男 | 9位 |
| | 女 | 15位 |
| 9 柔道 | | ベスト8 |
| 10 卓球 | 男 | 二回戦敗退 |
| | 女 | 二回戦敗退 |
| 11 ボート | | (不出場) |
| 12 陸上競技 | 男 | (総合成績の対象外) |
| | 女 | (総合成績の対象外) |
| 13 ヨット | | (不出場) |
| 14 水泳 | 男 | 200mフリーリレー 11位 400mフリーリレー 17位 |
| | 女 | --- |
| 15 合気道 | | (総合成績の対象外) |
| 16 空手道 | 男 | ベスト16 |
| | 女 | ベスト8 |
| 17 剣道 | 男 | ベスト8 |
| | 女 | ベスト8 |
| 18 ハンドボール | | 予選リーグ敗退 |
| 19 ラグビー | | 初戦敗退 |
| 20 ゴルフ | | 5位 |
| 21 スキー | 男 | 23年3月に実施 |
| | 女 | (総合成績の対象外) |
| 総合 | | 17位 |

| 競 技 名 | 【個人】種目成績 | |
|---------|----------|---|
| 12 陸上競技 | 男 | 中井貴大 400mハードル7位 田中宏樹 3000m障害5位 |
| | 女 | 高由美 400m3位、800m3位 呉海亜津佐 走高跳3位、やり投げ6位 |
| 14 水泳 | 男 | 新美雄大 50m 自由形2位 阪井論 100m自由形5位 など |

注：個人戦の成績は総合成績の対象となる入賞者のみを記載

今大会、最高の成績を修めた 準硬式野球部の喜びの声

「全員野球」で3位に」

この夏、選手32名、マネージャー12名という、かつてないほどの大人気で西医体に臨みました。野球は9人いれば1チームをつくることができますが、われわれはこの44名による「全員野球」ができたのではないかと考えています。

西医体の野球はトーナメント戦です。したがって、1度負けたらもう終わりです。次の日には奈良へ帰らなければなりません。このプレッシャーのなか、われわれは丸丸となって勝ち続けました。1週間で6試合というハードなスケジュールでしたが、貴重な体験ができました。

苦戦を強いられながらも延長戦の末、サヨナラ勝ちをおさめた準々決勝の岐阜大戦。今大会の唯一の敗戦で、優勝の夢が潰れた準決勝の阪大戦。前日の悔しさを胸に、燃え尽きる思いで挑んだ3位決定戦の山口大戦。

以上、残念ながら、決勝戦に進むことはできませんでしたが、3位という結果を残すことができました。このメンバーで最終日まで野球ができ、そして最終戦を勝利で締めくくることができて、実に楽しく、充実した夏となりました。

大会中、OB・OGの皆様、友人、家族など、野球部にかかわる多くの方々から応援や激励をいただきました。その一つ一つがわれわれ部員の力となり、今回の結果となったものと心から感じております。本当にありがとうございました。

(主将：医学科4年 岡村昭彦)



本学の学生は、勉強だけをしているわけではありません。

多くの学生は、文化系12部、体育系24部のうちのいずれかのクラブに所属しています。そして、心身を鍛え、交友を深め、青春を謳歌しています。

さて第2回のクラブ紹介は、ギター部と水泳部です。



ギター部

「一曲入魂! 一音入魂!」

部員:35名

主将:吉井 誠也(3年)

活動内容:ギター合奏の練習

練習日:毎週火曜・木曜 午後5時～7時

「ギター弾けたらカッコいいよな～……(*´▽`)」

そう、ギター弾けたらカッコいい! そしてギターは一生モンなんです。なんてたって、大勢でだって、一人でだって楽しめる楽器なんですから。そして初心者でも、まじめに練習していれば、一年も経つとけっこう弾けるようになります(勿論「極める」には相当の時間と努力と根気が要りますが)。現に、部のほとんどのメンバーが初心者からのスタートです。少しでも上達しようと、みんな頑張って練習しています。

そんな我らがギター部は、昭和41年に同好会として発足し、翌年には部に昇格。主な活動は年1回秋に開催する定期演奏会に向けて合奏曲を練習することです。今年は去る9月25日、無事にこれを終えることができました。合奏曲でみんなの呼吸を合わせるのはいへん難しく、曲マス(曲ごとのリーダー)も悩み苦しみました。部員全員が「一曲入魂! 一音入魂!」で乗り切ったと思います。もちろん部の活動はそれだけではありません。奈良県内のギタークラブが集う「ギターフェスティバル」に参加したり、アンサンブル部と合同でホスピスへ演奏に行ったり。今年は橿原地区医師会のサマーフェスティバルに出演させていただきました。春はBBQに行くし、練習期間の毎週木曜日には食事会をしたり、夏休み合宿ではギターは練習しつつ、花火や海や飲み会などで思い出を作ったり、オフ中には東京ディズニーシーに行ったり、クリスマスにはビンゴ大会をしたり。楽しく部活をやっていくには、こういうイベントも欠かせません!

そして現在、長い伝統を受け継いでギター部としてやっていけるのは、ギターが好きで、ギター部を愛してくださるOB・OGの方々のおかげです。先輩たちのご功績を後世に受け継ぎつつ、新しいことへも挑戦し活動していくのが今の私たち部員に課せられた使命だと思っています。



水泳部

「輝泳」

部員:37名(男子20名、女子17名)

主将:水町 邦義(3年)

活動内容:競泳

練習日:月水金の5時～

水泳部は奈良医専時代を含む60年以上の歴史をもつクラブで、総勢140名近いOB・OGの先輩方を輩出してきました。現在、神経内科学教授上野 聡先生に部長をお引き受けいただいております、主将を中心に、短いシーズンですが充実した練習をおこなっています。

今年度から先輩方のおかげで、外部のコーチを奈良医大プールに招聘し指導を受けています。年々、厳しい練習になってきておりますが、医学科は西医体優勝を、看護学科は西コメディカル優勝を目指し日々切磋琢磨しています。

今年は、第24回近畿医科学生水泳選手権大会の主幹を私達奈良医大水泳部が担当しました。この大会は、近畿圏内の全12大学から総勢350人もの参加を得て開催するものです。会場は国際水泳連盟認定のプールをお借りし、大会運営の後援には水泳連盟にいただきました。年々参加人数が増え、非常に大きな盛り上がりを見せています。今年は、主幹としての役割を果たすことに多くの時間をとられたため、競技そのものには満足に出場できませんでしたが、来年度からは、部員一丸となって優勝を目指したいと考えています。

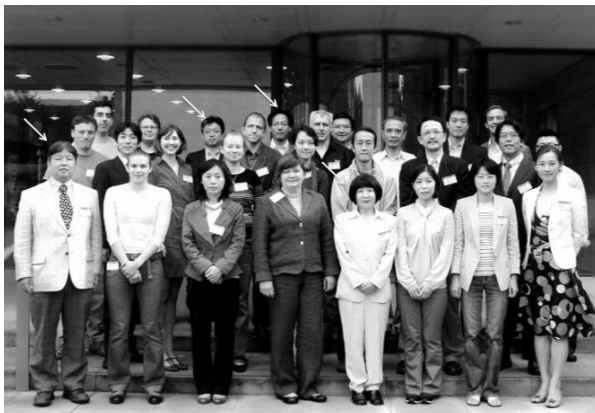
また、さる8月28日土曜日に、今年で3回目となるOB・OG交流戦を開催しました。これは読んで字のごとく、現役部員とOB・OGの先輩方との交流を第一の目的としています。試合内容は競泳中心ですが、長いブランクのある先輩方でも楽しんでいただけるよう水中騎馬戦を取り入れるなど、いろいろ工夫して運営しています。日程は毎年8月の第4土曜日と決まっています。OB・OGの先輩方! 奮ってご参加のほどよろしくお願い申し上げます!

最後になりましたが、奈良医大水泳部のHPも是非ご覧ください! <http://www.geocities.co.jp/CollegeLife-Labo/8447/>

英国Oxford University訪問の報告

生理学第二講座 高木 都

2008年に奈良県立医科大学と学術交流協定を締結したオックスフォード大学でBBSRC (Biotechnology and Biological Sciences Research Council) のサポートによるBBSRC Japan Partnering Programme : Cardiac Electro-Mechanical Function Cell-Organ Cross-Talk revealed *Via* Integration of Experiments and Models 2007-2011の最終年度の会議が9月6～7日に開催され、教室の張国興助教、小畑孝二助教、武輪能明非常勤講師(国立循環器病研究センター所属)と共にオックスフォード大学を訪問しました。会議で、私はグループリーダーとしてこの3年間の進歩についてoverview を行い、各自が成果を発表しました。私の発表の最初に、このBBSRC Japan Partnering Programmeが契機となって奈良県立医科大学とオックスフォード大学間で学術交流協定が締結された事を紹介しました。ついで、吉岡学長に託された国際交流グッズ(鹿の一刀彫)とメッセージを今回のプログラム組織者であるオックスフォード大学のDr. Peter Kohlに贈呈するセレモニーを行いました(写真)。オックスフォード大学は環境も良く、将来、我が大学の学生諸君も学びに行つて欲しいと思いました。



参加者一同の写真。矢印が奈良医大からの参加者



記念品とメッセージ授与のセレモニー

(研究推進課)

実験動物慰霊祭



実験動物慰霊祭を9月17日(金)に行いました。これは、実験動物の尊い生命に対し、哀悼の意を表すもので、毎年実施しています。

学長の祭文朗読後、多くの関係職員及び学生が献花を行いました。

私たち生命科学・医学に携わる者は、動物に対しても博愛的な敬愛を払う必要があります。やむなく動物実験が必要と判断したときは、犠牲になる動物数の削減に努め、そこから得られた貴重な情報を研究成果として広く社会に還元していかなければなりません。

医療倫理講習会開催

9月21日(火)、医療倫理講習会を開催しました。

この講習会は、「臨床研究に関する倫理指針※」に規定される“研究者は、臨床研究の実施に先立ち、臨床研究に関する倫理その他臨床研究の実施に必要な知識についての講演その他必要な教育を受けなければならない。”の一環として開催しているものです。

今後も年1~2回程度開催し、本学研究者の倫理的観点の更なる向上につなげていきたいと思っております。

講師 国立がん研究センターがん対策情報センター

がん情報・統計部がん統計解析室 室長 山本 精一郎 先生

研究倫理と被験者保護「臨床研究に関する倫理指針」について

※当該指針は下記厚生労働省のホームページからダウンロードできます。

<http://www.mhlw.go.jp/general/seido/kousei/i-kenkyu/index.html>



「医の倫理委員会」からのお知らせ

医の倫理委員会開催月日：原則として奇数月の第1火曜日13:30～

審査申請書は、遅くとも開催日の約1ヶ月前迄に事務局の研究推進課研究推進係（基礎医学校舎4階）へ提出してください。なお、迅速審査は、従来どおり随時開催です。

“動物実験の適正な実施に関する外部検証”

が実施されます

動物実験等は、「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針※」（文部科学省）に準じて、研究機関の長の責任の下で適正に実施されなければなりません。

さらに、この指針は、研究機関の長が指針への適合性に関し、自主的に点検・評価を行い、その結果について外部の者による検証を受けることを規定しています。

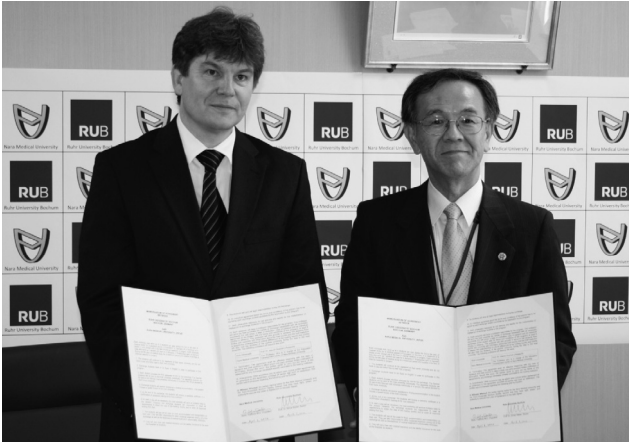
本学は、動物実験の適正化と社会的透明性の確保を図ることを目的として実施されている「動物実験に関する相互検証プログラム」（国立大学動物実験施設協議会及び公私立大学実験動物施設協議会の合同事業）により、下記の日程で検証を受けることとなりました。

ご理解とご協力のほど、宜しくお願い致します。

外部検証実施日：平成22年10月28日（木）13時～17時（予定）

※http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/O6060904.htm

ルール大学との学生交流協定締結記念 セレモニー&講演会を開催しました



本学とルール大学（ドイツ）との間で、本年4月9日に締結した『学生交流協定』を記念し、両大学による学生交流協定締結記念セレモニーと講演会を10月4日に開催しました。セレモニーでは、ルール大学代表の医学教育センター教授（生理学教授）Dr. Schaeferと吉岡学長が協定書を披露し、本協定に基づく学生交流が、両大学の学生にとって貴重な体験となり、広い視野を持つ医療従事者の育成につながるとの期待を表明されました。記念講演会では、Dr. Schaeferおよびフライブルグ大学病理学教授のDr. Riede、本学教育開発センターの藤本教授が講演され、大変実りの多い講演会となりました。

研究成果最適展開支援事業A-STEP 「FSステージ 探索タイプ」の採択について

6月1日にJSTの研究成果最適展開支援事業A-STEPの公募説明会を開催し、その後「FSステージ探索タイプ」に申請を行った本学の研究者の中から下記の課題が採択されました。

| 研究課題 | 所属 | 氏名 |
|---------------------------------------|-------|-------|
| 急速進行性糸球体腎炎の早期診断に有用な新規バイオマーカーの開発 | 第一内科学 | 岩野 正之 |
| 末梢血遺伝子発現プロファイルを利用した慢性腎臓病における動脈硬化進展予測法 | 第一内科学 | 上村 史朗 |
| 活性酸素種に着目した非侵襲的膀胱癌診断システムの開発 | 病理病態学 | 島田 啓司 |
| 癌細胞由来転移促進因子HMGB1の吸着療法による除去 | 分子病理学 | 國安 弘基 |

第17回 中島佐一学術研究奨励賞 の授賞式を開催しました

7月14日(水)、臨床第一講義室において、中島佐一学術研究奨励賞の授賞式が行われました。

今回の受賞者は、内科学第一講座の川田啓之助教、脳神経外科学講座の中川一郎助教のお二人で、受賞者にはそれぞれ賞状、記念品の楯及び研究奨励金が授与されました。

引き続き実施された受賞者講演会では、受賞テーマに沿って、川田助教が「抗血栓作用、再狭窄抑制作用、および再内皮化促進作用を兼ね備えた次世代型冠動脈ステントの開発」、中川助教が「薬剤性虚血耐性現象の解明」というテーマで講演されました。

この賞は、故中島佐一名誉教授のご遺族からの寄附金を財源として、医学の学術研究に優れた業績をあげた本学の若手教員に対して授与し、さらなる研究の発展を奨励することを目的としています。

毎年、各所属に応募要項を案内しておりますので、若手教員の積極的なご応募をお待ちしております。



後列：左より推薦者の斎藤教授、中瀬教授
前列：左より川田助教、吉岡学長、中川助教

産学官連携活動の推進について

本学では、平成20年度に産学官連携推進委員会（以下「委員会」という。）を設置し、産学官連携を推進するための諸施策について検討を行ってまいりました。

今般、大学の理念、中期計画等でも謳っている「社会貢献への積極的な取り組みを通じ、新たな研究機会の提供、研究分野の拡大、研究資金の更なる獲得等、研究環境の一層の充実を推進するため、早急に産学官連携活動を推進する体制を整備することが必要である」と役員会及び教育研究審議会に提言が行われ、教授会においても様々なご意見をいただいたところです。

今後、本学の実情に合った体制整備に向けて学内議論を深めていき、産学官連携活動の推進体制構築を目指すこととなります。

本学の財務状況は大変厳しいものがあります。しかし、産学官連携活動は、大学が取り組むべき社会貢献の一形態であり、組織としてこの活動に積極的に取り組んでいくことが、奈良県立医科大学の**ブランド力向上**につながるものと確信しています。

6月29日 第2回 知的財産セミナーを開催しました

6月29日に第2回「知的財産セミナー」を開催いたしました。今回は、**研究者・開発者が知っておくべき特許戦略上の実務ポイント—ライフサイエンス関連分野を中心に—**と題して藤井淳特許事務所の所長で弁理士の藤井淳氏にご講演いただきました。

近年では、民間企業のみならず、大学等の研究機関においてもその研究成果を財産化するために効果的な特許戦略を図ることが求められています。しかし、知財担当者や弁理士に丸投げするだけでは有効な特許戦略を図ることはできません。とりわけ、ライフサイエンス関連分野では、実験データの役割が大きいため、研究者の特許に対する認識・知識レベルが特許戦略を進める上で大きく影響することがあります。そこで、研究者の皆様には「ここだけは押さえてほしい」という特許戦略上の実務ポイントをわかりやすく解説いただきました。

産学官連携活動が活発化していない本学においては、講演者が研究者ではなく弁理士であるとともに、なじみの薄い内容であったためか、当日の参加者は24名と非常に低調でした。しかし、ご講演の内容は、産学官連携を進める上での特許戦略上の実務ポイントを網羅的に分かりやすく解説いただき、産学官連携活動において全ての教職員が知っておくべき内容であると思います。**当日の配布資料を希望される方は、研究推進課産学連携推進係（内線2552）までご連絡ください。**



開会挨拶（吉岡学長）



講演
（藤井淳特許事務所
所長・弁理士 藤井 淳氏）

『次世代医療システム産業化フォーラム』における共同開発提案を行いました



提案する小林准教授
（皮膚科学）



提案する森村助教（法医学）

昨年度より、産学官連携活動の一環として大阪商工会議所が主催する『次世代医療システム産業化フォーラム』において参加企業等に対し、本学の研究者のシーズ・ニーズによる共同開発提案を行う機会の提供を受けています。昨年度は、平尾教授（泌尿器科学）、細井教授（耳鼻咽喉・頭頸部外科）にご提案いただきました。

今年度は、去る7月30日に堺商工会議所において、小林准教授（皮膚科学）に「DNA損傷・修復のアンチエイジング“anti-aging”への応用」、森村助教（法医学）に「法医学領域における新しい薬品と機材の開発」と題してそれぞれご提案いただき、提案に対して興味を示した参加企業との技術交流が大阪商工会議所を介して進行中です。

産学官連携には、本学のシーズ・ニーズを外に向けて情報発信することも重要となります。研究推進課では近畿経済産業局のホームページに掲載する大学シーズ情報の取りまとめも行っていますので、『学内ホームページ→研究推進課→産学連携に関して→シーズ提出様式&記載ポイント』により、情報提供をいただけますようご協力をよろしくお願いいたします。

※大阪商工会議所『次世代医療システム産業化フォーラム』のホームページは、
<http://www.osaka.cci.or.jp/Jigyuu/med-device/2010/>

国際交流センターからのお知らせ

ゲストハウスでインターネット接続が可能となりました

これまでゲストハウスにはインターネットの接続環境が整備されていませんでしたが、学内LANへの接続設備工事をいたしました。これにより、入居者が学内LANを経由してインターネット接続することが可能となっています。

接続方法の案内を各部屋に配置するとともに、『学内ホームページ→研究推進課→ゲストハウス関連（空室情報等）→ゲストハウスのインターネットサービス利用案内』でも掲載しています。接続しようとするパソコンの環境によっては、学内LANへの接続がうまくいかない場合もあると思いますが、入居者の自己責任において接続利用していただきますよう周知にご協力をお願いします。

※インターネット接続環境を整備したことに伴い、各入室の電話回線は廃止しました。

平成21年度業務実績に関する評価等を受けました

公立大学法人を含む地方独立行政法人は、事業年度が終了すると、設立団体に「年度計画に関する業務実績報告書」及び「決算に関する財務諸表等」を提出し、評価委員会の評価または設立団体の長の承認を受けることとされています。

当法人においても、設立団体である奈良県に必要な書類を提出し、奈良県地方独立行政法人評価委員会の評価等を受けました。

評価委員会から、全体評価として『法人化後3年目となる平成21年度は、6年間の中期目標期間の前半を終了した時点にあたる。これまでの3年間、厳しい経営状況のなか理事長のリーダーシップのもと教職員が一丸となって、教育・研究・診療の質の向上や業務運営の改善に向け取り組んできた。その結果、各年度においては、おおむね順調に進んでいると判断し、総括すれば、中期目標・中期計画の達成に向け順調な進捗状況となっていると認められる。』との評価をいただきました。

「業務実績報告書及び評価結果」は、本学のホームページ「閲覧資料⇒情報公開⇒業務に関する情報」にて、「決算に関する財務諸表等」は、同「閲覧資料⇒情報公開⇒財務等に関する情報」にて、それぞれ公開していますのでご覧ください。(http://www.naramed-u.ac.jp/~aff/johokoukai/)

また、決算の状況や年度推移などをとりまとめた「第3期(平成21年度)決算の概要」を、学内専用ホームページ「財務企画課」に掲載していますので合わせてご覧ください。

(http://top.naramed-u.ac.jp/jimu/zaimukikakuka/H21_kessan_gaiyou.pdf)

(附属図書館)

引っ越しました

ますます充実、「闘病記文庫」

闘病記には、患者さんやそのご家族が病気に直面したときの思いや悩みが率直に綴られています。そして、その病気や障害をいかに克服するか、悩みや不安、死の恐怖、経済的な負担、社会的立場の変化など、当事者でないと直面しえない情報で溢れています。

闘病記文庫が当館に開設されたのは2年前、きっかけは医学科学生からの声でした。授業や教科書ではなかなか学べない患者さんの気持ちを理解するのに闘病記を参考にしたいという考えに当館が賛同し、各方面からの支援を受け開設が実現しました。

当初の蔵書数は200冊あまりでしたが、500冊を超えて手狭になったことを受け、今までの書架から新着雑誌コーナー隣に移動したところです。そのためよりゆとりと利用していただけるようになりました。

医療従事者やその職を目指す学生などにとって、患者さんの置かれた状況を学ぶ一助になればとの思いを受けた闘病記文庫。これからもより多種多様な疾病の記録を取り揃え、ますます充実させたいと考えています。

タイトルだけでは闘病記とわかりにくいものもあります。テレビや書店で見つけたら、ぜひ当館へリクエストしてください。

なお、闘病記文庫のリストは当館ホームページ左側メニュー「図書リスト」からご覧いただけます。



インパクト・ファクターがいつでも検索可能に ～JCR Web版導入～

学術雑誌を評価する上で最も利用されている指標である「インパクト・ファクター（以下、IF）」は、「JCR (Journal Citation Reports)」(Thomson Reuters社発行)という資料に掲載されています。当館では、これまでCD-ROM版しか備えていなかったため、みなさまにはIFを調べるために、当館までご足労いただく必要がありました。

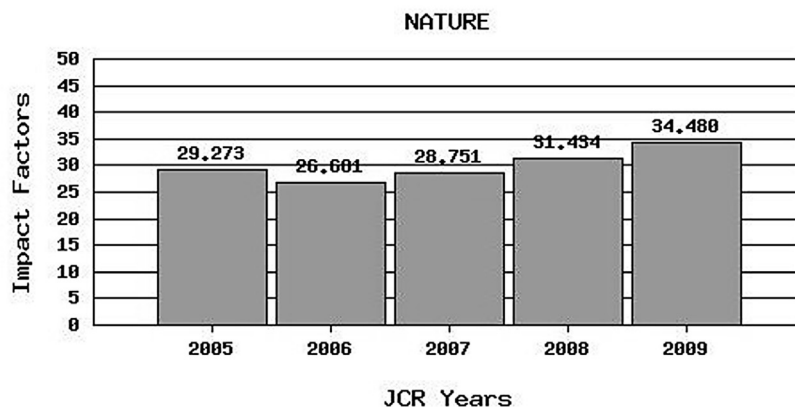
しかし、利用頻度が高いこと、情報量が圧倒的に多いことなどから、このほどWeb版への切り替えをいたしました。これにより、学内であれば、いつでもどこからでもアクセスしていただけるようになりました。

Web版では、2年間の引用状況から算出した従来のIFに加え、5年間で算出した「5年IF」と、メジャー誌による引用に重み付けをした新指標「アイゲンファクター」が追加されています。

そのほかにも、IFの5年間の推移や、自誌引用を除いた場合のIFなど、興味深いデータも載せられています。

アクセスは、当館ホームページ (<http://www.narmed-u.ac.jp/lib/>) トップメニューの「オンラインリソース」からリンクしていただけますのでぜひご活用下さい。

インパクト・ファクターの5年間の推移の例 (Nature)



本学の研究成果を全世界へ ～11月4日(木)、機関リポジトリ・ワークショップを開催～

学術雑誌が毎年値上がりが続いていく中で、学術情報を健全に流通させていこうという運動から、無料でアクセスできる（オープンアクセス）文献が増えてきています。本学のような教育・研究機関の成果物を自機関で蓄積・公開していくためのシステムを「機関リポジトリ」と言い、オープンアクセスの手段の一つとして全世界で普及しています。本学ではGINMU（ジンム = Global Institutional repository of Nara Medical University）という名称で、昨年度から本格公開しており、当館で運用しております。

さて、来る11月4日（木）、厳櫃会館にて、医科系機関リポジトリのワークショップを開催する予定です。参加対象は、本学教職員、学生及び全国の医・歯・薬・看護系図書館職員です。基調講演に続いて、研究者の立場から平尾図書館長、藤田基礎看護学教授にそれぞれお話しいただく予定です。最後に、事例報告とパネルディスカッションがあります。

詳細は今後、当館ホームページやニュースレターでお知らせします。機関リポジトリの基礎から導入事例、活用の将来性に至るまで、何でもありのイベントですのでお気軽にご参加下さい。

また、ご自身の研究成果物をGINMUに掲載したいという方は、担当まで気軽にお問い合わせ下さい。



担当：鈴木、和田（内線2293、2392）GINMUホームページ = <http://ginmu.narmed-u.ac.jp/>

(編集委員会から) この記事は編集委員から依頼し、洪水災害の被災地において、いち早く救助支援に参加された救急科・西尾准教授の貴重な経験を寄稿していただいたものです。西尾先生、本当にお疲れ様でした。

パキスタン大洪水被害に対する 国際緊急援助隊医療チームに参加して

救急科 西尾 健治

皆さん、パキスタンって何処にあるかご存知でしょうか?インドの西にあり、紀元前2000年ころにはインダス文明を育んだインダス川が国土の真ん中を流れています。極貧国のひとつですが、今年7月末に続いた大雨がそのインダス川の大洪水を招き国土の1/5を覆う、建国史上最悪と評される水害をもたらしています。被災者は2000万人、死者も2000人を超え、劣悪な衛生状況の下、感染症などの多発が問題となっています。そこで日本政府は9月1日国際緊急援助隊医療チーム(JDR)を現地に派遣することを決定、私も今回はJDRの一員として選ばれ活動に参加することとなり、9月3日から9月16日までパキスタンで診療を行ってきましたので報告いたします。

JDRは総勢23名で、団長1人、医師4人、看護師7人、薬剤師2人、レントゲン技師1人、検査技師1人、調整員7人で構成されていました。

まず空路でパキスタン北部にある首都イスラマバードに入りましたが、びっくりしたのが荷物の多さでした。診療所設営のためのかなり大きめの箱が個人の荷物以外に146個もあり、トラックに乗せるのが大変でした。イスラマバードから約400km離れた水害のひどかったムルタンにマイクロバスで10時間かけ向かいましたが、通過した町ラホールでは5月と7月、さらに9月1日にも3件の自爆テロがあって25人が死亡したばかりでした。タリバンも外国からの支援団を攻撃すると声明を出しているとの情報もあり、警察と軍の護衛付きバス移動でした。

JDRでは現地でテントをはり野営することもあります。今回は安全面を考慮し警察官が多数護衛しているムルトンのホテルに宿泊し、毎朝6時に出発して、片道2時間弱をかけてサナワンという田舎町にあるRural Health Centerまで軍と警察の護衛のもと移動し、臨時医療施設を設置して診療にあたりました。



整理券もらった後、診察を待つ人々

9月5日から9日間診療をおこないましたが、気温は40度を超え、電気事情が悪く扇風機が止まった時には室温は47度を記録し、汗を全身から噴き出しながら医療団として1日平均約200人の患者さんを診療しました。洪水により衛生状態が悪くなり発生した感染性胃腸炎、全身に広がった皮膚の感染症、マラリアなどの人が多かったですが、薬や点滴などの加療によく反応し、医療者にとってこの上ない喜びを与えてくれました。しかし、いたるところに残っている洪水の水にわいたボウフラの除去など公衆衛生的なアプローチによる病気の予防が、医療より必要な状況と感じました。

また久しぶりに口対口の人工呼吸をしました。開放性骨折の整復とギブスを巻く時に鎮痛のため使用した麻酔薬で呼吸が止まってしまい、すぐにバッグとマスクが出てこず、患者さんの顔にチアノーゼが出てきて真黒になってしまったので開始しました。チフスやコレラという患者さんもおられたので感染症がうつらないか心配で、患者さんに口づけをするのは抵抗感もありましたが、現在も下痢症状なども出ていないので大丈夫だったようです。患者さんも次の日には膿もなく元気な姿を見せてくれてホッとしました。

2週間という短い期間でしたが、充実感に満ちたJDR活動の間、熱中症や腸炎、赤痢（僕たちの後を引き継いだ隊で発生）にかかる隊員が発生する中、僕はすこぶる元気で、毎日のカレーもおいしくいただき、太ったと皆に評されておりました。ただ、その太った頭にも自分たちのやっていることの限界、施しではなく人が人へ援助することの難しさに思いを馳せながらの活動でもありました。そういう今まで気づけなかった点を発見できたことも自分にとってプラスになる経験だったと思っています。

最後にこのような機会をいただくことを許可して下さった奈良医大吉岡学長をはじめとする大学当局と救急科奥地教授、救急科医局員諸兄に感謝いたします。



診療所の前にて（中央日の丸の上が私）

平尾佳彦教授に厚生労働大臣感謝状



泌尿器科学教室の平尾佳彦教授が10月3日に第12回臓器移植推進全国大会（熊本市）において、臓器移植対策推進功労者として厚生労働大臣感謝状を贈呈されました。本学では昭和49年から腎移植を実施しましたが、献腎移植を基本としたことから必ずしも活発といえない実情でありました。平尾教授は平成8年に教授就任後、吉田克法現病院教授とともに奈良県の献腎推進活動に積極的に関与し、県内唯一の腎移植施設として148件の腎移植を行っています。内訳は献腎移植54件（脳死移植2件、心臓死移植52件）および生体腎移植94件で、最近では血液型不適合移植や夫婦間移植も積極的に推進しており、今回の感謝状の贈呈は、その功労が認められたものです。

臓器の移植に関する法律が改正、本年7月から全面施行され、本人の意思が不明の場合は、家族の書面による承諾で脳死下での臓器提供ができること、また15歳未満の脳死下臓器提供が可能となりました。本年9月までに脳死臓器移植は国内96例、改正臓器移植法施行以後に家族承諾で脳死臓器提供されたのは9例と、移植医療が普及する兆しが見られています。

本学では平成4年に附属病院臓器移植実行委員会規程が制定され、平成13年には既に1例の脳死臓器提供が実施されておりますが、家族の承諾による臓器提供を認めた今回の改正臓器移植法を受けて、対応訓練など体制の整備が求められています。移植医療の推進に本学関係者の方々の一層のご協力、ご支援をお願い申し上げます。

リウマチ外来がスタートしました!

～関節の腫れ・痛みに応えます～

総合診療科 藤本 隆



10月から、附属病院整形外科外来の中に新しくリウマチ外来がスタートしました。リウマチ外来では整形外科医と内科医が常勤して、関節の痛みや腫れを訴える患者さんに的確な診断と最善の治療を目指しております。

関節リウマチの治療は、近年の新しい治療薬や人工関節などにより長足の進歩を遂げつつあります。リウマチ治療の進歩を背景にして、迅速かつ的確な診断について一人一人に合った最適の治療が求められています。このような要請に応じて、整形外科医と内科医の緊密な連携により関節炎診療を円滑に進めていくことが必要とされます。また、進化するリウマチ治療を広く届けるために、

外来のスタッフが中心となり学内でのリウマチ教室の開催や地域連携の実践も積極的に進めております。

リウマチ外来の役割は、学内の先生方および地域医療に携わる先生方との連携を密にして関節炎に対する最善の治療を提供することであると考え、スタッフ一団を合わせご期待に沿うように努力いたします所存です。

今後も、各科の諸先生方ならびにコメディカル諸兄姉にご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(病院管理課)

～患者さんの気持ちが和めばと～ 油絵のご寄附

5点の大きな油絵をご寄附いただいた馬場秀雄様御夫妻に、7月16日、吉岡理事長から感謝状をお渡ししました。

馬場様は、理事長の中学時代からのご友人で、今回、ご寄附いただいた油絵（80号：1455×1120mm）は、亡きお母様（一水会会員 馬場綾子様）の作品で、とても優しい雰囲気があります。

馬場様は、「こんな大きな病院に展示していただいて、大変、光栄です。患者さんの気持ちが少しでも和めば、私達夫婦、亡き母も幸せです。」とおっしゃっておられました。

1階の7番窓口にて2作品、2階通路北側に3作品展示していますので、是非、ご覧ください。



看護部から

メディカルバースセンターが開設されます (平成23年1月予定)

メディカルバースセンター準備室

看護副部長 西 幸江

助産師 川口 恵美子、山田 奈央



左から川口助産師、山田助産師、西看護副部長

一般に『バースセンター』とは西洋で使われる言葉で、正常な妊娠・分娩・産褥のケアを助産師が主体となって運営する場所で、日本の『助産所』と同じようなものです。日本ではバースセンターというと、病院組織の中の助産所＝院内助産をいうことが多いでしょう。さらに『メディカルバースセンター』は周産期の第3次医療施設である本学附属病院内にあり、緊急時の対応が円滑に行われることを目的としています。

当院メディカルバースセンターはA棟6階南に開設します。妊産婦に安心して自然な分娩をしていただくためにお産の部屋は医療機器が見えないようにし、分娩用のベッドだけでなく畳コーナーも設けます。ここで家族に囲まれながらゆったりとお産をしていただけます。先端医療の大学病院内ではちょっと不思議な空間です。分娩直後から赤ちゃんとくつろいだ雰囲気でも過ごせるよう病室は全室個室となっています。10床と小規模で

すが一人ひとりの妊産婦に寄り添うことができるようにと思っています。

現在外来2階産婦人科で行われている助産外来をメディカルバースセンター内に移転し、妊婦健診から継続して関わります。また母親となる女性に健康な経過をたどっていただくにはセルフケアを促すプログラムの充実、正常と異常を見極める助産師の診断・技術の高さなどがより重要となります。そのため8月からマタニティ相談室の開設、助産師の研修参加やミーティングを重ねています。すでに学内外から多くのご支援をいただいておりますが、今後も皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

活躍する認定看護師たち

附属病院では、13名の認定看護師（日本看護協会認定）が、10の分野で活躍しています。今年度、新たに認定されたメンバーを順次ご紹介いたします。

糖尿病看護認定看護師

うやま みき 鶴山 美樹 (C病棟7階)



循環器・腎臓・代謝内科病棟の糖尿病看護認定看護師、鶴山美樹です。

糖尿病は生活習慣病の一つであり、治療において患者さんが主体的に療養行動に取り組むことが重要です。当科では合併症の併発をきっかけに糖尿病と向き合う患者さんに対し、自己管理の問題点の糸口を見いだせる援助に努めています。

現在、活動中の糖尿病教室では患者さんとの相互理解に努め、楽しく学べる患者参加型の講義を、糖尿病専門医・糖尿病療養指導士の資格を持つ看護師・薬剤師・管理栄養士・理学療法士らによる糖尿病チームで開催しています。

さらに今年4月から看護専門外来の糖尿病看護領域を担当し、患者さんおよび家族へのケアを含めた療養指導にあたっています。

ここでは、患者さんの思いや考えを尊重し、患者さんの持てる力を信じながら、糖尿病とともにある生活を歩んでいけるようなセルフケア支援ができればと思っています。

緩和ケア認定看護師

うえだ みゆき 植田 未由紀 (C病棟5階)



がん診断・告知された早期から生命を脅かす病気に直面しているがん患者さんは痛み、倦怠感などのさまざまな身体的症状や、落ち込み、悲しみ、気持ちのつらさなどの精神問題を抱え、また家族も同様の問題を抱えています。その問題を評価し、症状緩和の実践とスタッフへの指導と相談を行なっています。そして緩和ケアは『がんの治療』と一緒に提供されるケアであることを普及しながら現在、自身の病棟の緩和ケアの質の向上に向けた患者さんや、家族へのケアの実践に力を注いでいます。

そして今後は、各病棟のベッドサイドで患者さんと家族の『その人らしさ』を大切にQOL (Quality of Life) の向上を目指し、病棟スタッフと共に患者さん・家族のニーズを考え、そのニーズに合わせたケアを、よりよい環境で患者さん・家族に寄り添い、心地よくホッとできる時間が増えるようなケアを実践していきたいと思っています。

公開講座 「くらしと医学」を開催しました



吉岡学長あいさつ

今年度前期の公開講座を、9月11日(土)に橿原文化会館大ホールにて開催しました。平成6年度から始まったこの講座も、今回で25回目となり、今回の会場である橿原文化会館での開催も9回目となりました。当日は、約400名と多くの聴講者を得て次のとおり進められました。

- ◇吉岡学長あいさつ
- ◇講演
 - ①高沢伸教授(生化学)「奈良仏教の智慧? : 遷都1300年に糖尿病を考える」
(座長: 高橋幸博教授)
 - ②高橋幸博教授(総合周産期母子医療センター)
「新生児医療から学んだ『赤ちゃん』のふしぎ」
(座長: 谷口繁樹教授)
 - ③谷口繁樹教授(胸部・心臓血管外科学)「血管を元気にしよう!」
(座長: 高沢伸教授)

聴講者はメモを取るなど、熱心に聞いていました。また、日常生活の中での悩みなど質問もありましたが、演者の適切な回答に納得していました。

公開講座は、本学の地域貢献の一環として、「くらしと医学」をテーマに開催しています。後期の予定は次のとおりです。

日時: 平成23年2月19日(土) 13時から

場所: 奈良県文化会館(奈良市)

演者: 石坂教授(寄生虫学)、岡本教授(中央臨床検査部)、

濱田教授(看護学科・臨床病態医学)



高沢教授



高橋教授



谷口教授

～ふるさと奈良県応援寄附金～

「ふるさと奈良県応援寄附金」をご存じですか?

これは本学(医科大学・附属病院)の整備や運営支援を特定した寄付ができるというものです。

【主な特徴】

県内在住の方も寄附できます。

税制上の優遇措置が受けられます。(個人住民税所得割の概ね1割の税額軽減。ただし要確定申告)

奈良県の特産品を受け取れます。(ただし県外居住で5,000円以上寄付いただいた方)

【寄付の手続き】

まず最初に寄付の申し込みが必要です。

(下記URLをご覧ください、下記窓口へお電話ください。)

手続きはこちらから⇒ (<http://www.pref.nara.jp/furusato/kifu/kifu.html>)

申請様式はこちらから⇒ (<http://www.nara-download.jp/detail.php3?1777>)

【寄付の方法】

下記のいずれかの方法が選べます(県税事務所等での現金払込も可能です)。

①クレジットカードによる引き落とし(インターネット利用)

②払込書による納付

③口座振替(要手数料)

寄付金がどのように使われたのかは、県のホームページ※を通じていつでも確認していただけます。

ぜひあなたも本学の整備に一役買ってください。

【お問い合わせは】

ふるさと奈良県応援寄附金受付窓口(奈良県総務部税務課内)

電話番号: 0742-27-8363(ダイヤルイン)

ファックス番号: 0742-26-3674

※「ふるさと奈良県応援サイト」(<http://www.pref.nara.jp/furusato/>)

4連覇達成!! ー奈良県職員組合バレーボール大会ー

奈良医大支部合同チーム

去る7月26日、職員組合バレーボール大会が県立橿原体育館で行われました。今年は大会日程の関係で医大チームの参加者は少なく、練習も十分にできませんでしたが。それでも看護師を主体とした少数精鋭のメンバーで出場しました。

試合は良く決め、良くひろい、順調に勝ち上がり、全試合ストレート勝ちという他を寄せ付けぬ強さでの優勝となり、4連覇を飾ることができました。

ただ少し気がかりなのは、今年で33回を迎えたこの大会が「来年以降開催されるかどうか分からない」ということです。ぜひ今後もこの様に職種を越えて交流ができる機会を持てることを期待しています。ここまで医大合同チームを支えて下さったみなさまに感謝いたします。



学長へ優勝を報告

後列左から巽さん(C棟8階)、四方さん(中央材料室)、森家さん(中央内視鏡・超音波部)

Report

承認された規程、委員会名簿等については、随時、ホームページにて公開しています。

学内ホームページURL（閲覧は学内のみ可能）

<http://top.naramed-u.ac.jp/> → **「規程・名簿タブ」**

※は、公開ホームページに掲載

<http://www.naramed-u.ac.jp/aff/johokoukai/>

（総務課）

役員会及び教育研究審議会の報告

第12回 役員会（7月7日）

- 1 教育研究審議会予定案件を承認
- (1) 学長指名委員の選任について
- (2) 発明届について
- (3) 教員人事について
- (4) 研究教授の称号付与について
- (5) チェンマイ大学医学部との学術交流協定施行細則の一部改正について
- (6) アドミッションポリシーについて

第7回 教育研究審議会（7月8日）

- 1 学長指名委員として藤本眞一教授（教育開発センター）を選任
- 2 筏教授（住居医学）から提出された発明届について、特許等を受ける権利を承継することを決定
- 3 吉川教授（放射線医学）から提出された発明届について、特許等を受ける権利を承継することを決定
- 4 教員人事を承認
- 5 地域医療学講座規程を承認【奈良県との「地域医療学講座の設置に関する協定」の締結をもって施行】
- 6 平成23年度医学科入学試験の改正（地域枠の拡大）を承認
- 7 看護学科保健師課程の選択制導入に伴う保健師課程を選択できる学生数を承認
- 8 研究教授の選考について承認、結果を役員会へ報告
- 9 チェンマイ大学医学部との学術交流協定施行細則の一部改正を承認
- 10 アドミッションポリシーの一部改正を承認、教授会での意見聴取を決定
- 11 平成21年度決算を報告※
- 12 平成21年度計画の評価を報告※

第8回 教育研究審議会（7月13日）

- 1 眼科学教授候補者として緒方奈保子氏を承認、役員会に答申
- 2 外国人客員研究員の受け入れ（泌尿器科学教室）を報告

第13回 役員会（7月14日）

- 1 眼科学教授として緒方奈保子氏を決定
- 2 アドミッションポリシーの改正を決定※
- 3 研究教授として森俊雄氏（先端医学研究機構ラジオアイソトープ実験施設）を決定、8月1日付けで称号付与
- 4 緩和ケア診療加算の取得について検討、継続審議
- 5 全職員に対する決算状況説明会の開催を報告

第14回 役員会（7月21日）

- 1 職員（薬剤師）採用試験の実施を決定
- 2 職員採用計画を検討、継続審議
- 3 文部科学省「周産期医療に関わる専門的スタッフの養成」について、不採択であった旨報告

第15回 役員会（7月28日）

- 1 職員採用計画を承認
- 2 看護職員採用試験の合格者を決定

第16回 役員会（8月4日）

- 1 職員（社会福祉士、理学療法士及び作業療法士）採用試験の実施を決定
- 2 財務状況（6月末現在）を報告

第17回 役員会（8月18日）

- 1 短期借入金の上限額の変更（20億円⇒30億円）を承認し、県に申請
- 2 人事院勧告の状況を報告

第18回 役員会（8月25日）

- 1 精神医療センターの整備計画等を承認
- 2 固定資産等管理規程の一部改正を承認、8月25日付けで施行
- 3 総合医療情報システム運用管理規程の一部改正を承認、8月25日付けで施行

4 教育研究審議会予定案件を承認

- (1) 寄生虫学講座あり方検討ワーキンググループ答申について
- (2) 発明届について
- (3) 産学官連携の推進について
- 5 電子カルテシステムの更新方針を報告
- 6 職員採用試験の応募状況を報告

第19回 役員会（9月1日）

- 1 教育研究審議会予定案件を承認
- (1) 臨床教授等の選考について
- (2) 教員の海外留学（期間延長）について
- (3) 職務発明等規程の一部改正について
- (4) 発明届について
- 2 外国人客員研究員（泌尿器科学）の受入期間延長を報告
- 3 平成22年度年度計画の進捗状況（6月末現在）を報告
- 4 平成21年度財務諸表の承認および業務の実績に関する評価結果を報告
- 5 看護職員採用試験（平成23年4月1日付け等）の合格者を決定

第20回 役員会（9月8日）

- 1 教育研究審議会予定案件を承認
- (1) 教員人事について
- (2) 医師配置システム構築のための地域医療学講座の設置に関する協定について
- (3) 地域医療学講座教授の候補者について
- (4) 出願等を保留する条件が付された知的財産の取扱いについて
- 2 財務状況（7月末現在）を報告
- 3 職員採用試験の応募状況を報告
- 4 ふるさと奈良県応援寄附金について報告
- 5 薬剤師採用試験の合格者を決定、2名を10月1日付けで採用

第9回 教育研究審議会（9月9日）

- 1 寄生虫学の教授選考に係る基本方針の策定にあたり教室員から意見聴取
- 2 小林教授（産婦人科学）から提出された発明届について、特許等を受ける権利を承継することを決定
- 3 穴井助教（泌尿器科学）から提出された発明届について、特許等を受ける権利を承継しないことを決定
- 4 寄生虫学講座のあり方についてワーキンググループ答申を報告
- 5 産学官連携のための諸施策について、推進委員会の検討結果を報告、検討結果に基づく検討開始を決定
- 6 小児科学講座から推薦のあった臨床准教授2名の選考を決定
- 7 粕田助教（法医学）の海外留学期間の延長を承認
- 8 教員人事（10月1日付け）を承認
- 9 職務発明等規程の一部改正を承認、9月9日施行
- 10 大崎教授（化学）から平成21年9月に提出された発明届にかかる特許等の承継権について、本人への返還を承認。
- 11 奈良県と締結する「医師配置システム構築のための地域医療学講座の設置に関する協定」を承認
- 12 地域医療学講座教授として松村雅彦氏（総合医療学）を決定
- 13 外国人客員研究員（泌尿器科学）の受入期間延長を報告
- 14 平成21年度財務諸表の承認および業務の実績に関する評価結果を報告※
- 15 平成22年度年度計画の進捗状況を報告

第21回 役員会（9月15日）

- 1 中期計画（短期借入金の上限額）変更の認可を受け、年度計画変更の知事への届出を承認

第22回 役員会（9月29日）

- 1 教育研究審議会予定案件を承認
- (1) 授業料の減免制度について
- (2) 看護学科の大学院修士課程について
- 2 住居医学講座「病室環境研究」の交付決定を報告
- 3 職員採用試験の合格者を決定

【新コーナー誕生!!】

「メディア掲載情報」をお寄せください～学報で紹介します～

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、記事を掲載された教職員・学生を、この「学報」紙面で紹介します。

| 掲載者 | 掲載メディア | 掲載概要 |
|--------------------------------|---------------------------------|--|
| 斎藤 能彦 教授 (内科学第一) | 日経新聞 8月2日(月) | 急性心筋梗塞の薬の副作用を抑え治療効果を高める手法を京都大学の田畑泰彦教授らとともに開発したことが掲載されました。 |
| 車谷 典男 教授 (地域健康医学) | 毎日新聞 朝刊 8月4日(水) | 奈良県医師会が医療関係者を対象に実施した「院内暴力」に関する調査について、車谷教授らが実施したアンケートの回答内容などが掲載されました。 |
| 大崎 茂芳 教授 (化学) | 産経・日経・読売 新聞 朝刊 他 9月10日(金) | クモの糸を大量に使ってバイオリンの弦を世界で初めて作成することに成功したことが掲載されました。 |
| 【情報提供例】 〇〇 〇〇 教授 (〇〇〇〇学) | 〇〇新聞 朝刊 〇〇月〇〇日(〇) | 〇〇〇〇のページに〇〇教授による〇〇病に関する解説が掲載されました。 |

このコーナー「メディア掲載情報」は、皆さんからの提供情報に基づき作成します。自薦、他薦を問いません。

【掲載条件】 下記のいずれかに取り上げられたものに限らせていただきます。

- (1) 朝日・産経・日経・毎日・読売の5大紙(地域面を含みます)
- (2) NHK・毎日・朝日・関西・読売の各テレビ局
- (3) 主要な月刊誌、週刊誌等

【情報提供内容】 上記【情報提供例】を参考に、どしどし情報をお寄せください。

- (1) 掲載者(所属・職・氏名)
- (2) 掲載メディア(掲載(放送)日時、朝・夕刊の別等)
- (3) 掲載概要(100字以内)
- (4) 掲載紙面のコピー等参考となる資料

【情報提供先】 ファックス等の方法により、下記へお知らせください。
法人企画部 総務課 総務係(内線2206) FAX 25-7657

学報バックナンバーはWebサイト上でもご覧いただけます(<http://www.narmed-u.ac.jp/gakuho.htm>)

(おくやみ) 名誉教授 伊東 信行 先生(81歳)が、平成22年10月6日ご逝去されました。謹んでご報告申し上げますとともにご冥福をお祈りいたします。

下ッ道

(編集後記)

長かった猛暑が過ぎ去り、やっと秋の訪れが感じられるようになりましたね。ほっとした方も多いのではないのでしょうか?この夏の暑さには木々も少々お疲れのようでしたが、夏の十分な日照と10月下旬からの冷え込みが予測されることから、今年も色鮮やかな紅葉が期待できるそうです。楽しみですね。

奈良医大のレベルアップを図り、早稲田大学との連携がますます活発化しているとのこと、こちらも大いに期待できますね。

掲載希望の記事等については、各編集委員までお知らせください。

○今村 知明(健康政策医学)
高橋 昭久(生物物理学)
笹平 智則(分子病理学)
植村 正人(内科学第三)
坂東 春美(地域看護学)
錦 三恵子(看護部)
岡 眞啓(研究推進課)
鷹本 純史(学務課)
奥田 稔(病院管理課)
鷹野 寛(総務課)
(○印は編集委員長)